

様々な意味での“学び”

山岡美貴

現時点（9月16日）で埼玉県親善大使委嘱式と3回の授業、そして1回目の学生との交流が終了した。全15回の授業が予定されており、まだまだこれから、という部分もたくさんあるが3回の授業を受けただけでも自分の中で様々な“気づき”を得られた。

OSGSプログラムの授業は、生徒が発言しやすい雰囲気作りがされており、より実践的な、柔軟性に富んだものであると言えると思う。例えば、初回の授業ではとてもカジュアルな会話から授業が入ったことで「こんな些細なことも話していいのだ」と感じる事ができた。また授業内で必ず生徒だけで話し合う時間を先生がとってくれる。生徒数が5人と少人数なのもあり、その時には活発な話し合いをすることができる。初めは自分の英語力が少し心配だったが、その不安もすぐに解消した。先生の言葉の中で特に印象的だったのが「英語を間違えたところで誰が嫌な思いをするか、誰もしない」というものだ。それを聴き、自分の中で英語を間違えることへの恐怖心が薄まり、より活発に議論に参加しようと決意することができた。

Zoomの書き込み機能を利用して先生のスライドに自由に自分の考えを書く機会があるなど、大人数の授業ではなかなかできない、生徒一人一人が積極的に参加することができる授業づくりが行われていると感じる。また、先生との距離感が近いことも特徴の一つであると思う。授業が始まるまでの時間に今日あったことを先生が生徒に聞いたり、先生のご家族の話が授業中の例えの中でよく出てきたりと、先生をより近く感じることができる瞬間がたくさんある。

これまでの授業で最も興味深かったのは、コミュニケーションの取り方について学んだことだ。私は、どうすればうまく様々な人と会話できるのか気になっていた。そのため、今回の授業の中で、相手への話題の振り方や、会話中に気をつけるべきことなどを先生が教えてくださり、とても納得できた。さらに、それを練習するために実際に5人でディスカッションをする時間が与えられ、自分の日本語、そして英語でのスピーキング力の自信向上につながった。

フィンドレー大学の学生との交流会では生きた英語での会話を体験することができた。フィンドレー大学の学生はとても積極的に話してくれ、アメリカでの学生生活をより身近に感じることができた。さらに、川村先生のご協力もあり今回の交流会1回だけではなく、今後ずっと続いていくような関係性を築く第一歩となったと感じている。

今後の授業では、プログラムの目的である「英語での発信力」をつけるために、一回一回の授業を楽しみながらさらに積極的に、失敗を恐れず挑戦し続けたいと思う。

第3回の授業の様子

